

野菜に発生する主な大型チョウ目害虫

| 害虫名 | 主な加害作物 | 生態 | その他特徴 | 被害 |
|-----------|---|---|---|--|
| オオタバコガ | ウリ科、ナス科、 トウモロコシ、オクラ、 エンドウ、インゲン、ダイズ、 アブラナ科、レタス、 アスパラガス、ニンジン、 パレイシヨ、ネギ 他多数 | 成虫：体長25mm前後、全体黄褐色で黒褐色の線や斑紋 幼虫：体長35～40mm（終齢）、淡緑色～緑褐色、黄褐色 年3～5回発生し、5月以降発生しピークは不規則でほぼ連億して発生する。8月～9月に最も発生が多い。卵から3日～5日でふ化する。 | 秋以降に蛹化したものは土中で越冬する。幼虫は作物の内部に潜る性質があり、果実には短時間で食入する。 | ふ化した幼虫が花蕾や幼果を食害する。短時間のうちに果実に侵入し、内部を食い尽くすと外に出て別の果実に移動する。老齢幼虫になるまでに2～3個の果実を食害する。 食害された果実には丸い孔が空いているのですぐわかる。また、この傷から腐敗や落果の原因ともなる |
| ヨトウガ | | 成虫：体長20mm前後、灰褐色～黒褐色 幼虫：体長60mm（終齢）、灰黄色～灰黒色 年2～3回発生し、4月下旬～5月下旬、9月上旬～10月上旬に発生多い。卵から7日～10日でふ化する。 | 寒冷を好む害虫で夏の高温下では夏眠する | 若齢期の幼虫は葉裏に群生し、葉の表皮を残して食害する。中齢期以降は、分散して加害し、葉脈や葉柄を残して食害する。ナス科野菜では、果実にも幼虫が侵入して加害する。 |
| ハスモンヨトウ | アブラナ科野菜、ニンジン、 ゴボウ、キュウリ、トマト、 ネギ、エンドウ、ソラマメ、 ダイズ、パレイシヨ、 カンシヨ 他多数 | 成虫：体長18mm前後、暗褐色、斜めの太線あり 幼虫：体長60mm（終齢）、暗褐色～灰褐色 年5～6回発生し、7月下旬～11月下旬に発生多い。施設では冬でも発生。卵から2日～3日（夏場）でふ化する。 | 暖地を好む害虫で休眠しない。 夜間に飛来し産卵する。 | |
| シロイチモジヨトウ | | 成虫：体長11mm前後、暗褐色 幼虫：体長30mm（終齢）、緑褐色～灰黒色 年5回程度発生し、7月以降被害が多くなり、8月～10月は特に多い。卵から2日～3日でふ化する。 | 暖地を好む害虫で休眠しない。 夜間に飛来し産卵する。 ヨトウ類の中では一番小柄 | 特にネギの被害が大きい。ふ化したばかりの幼虫は葉の表皮をわずかにかじって葉内に食入し、葉の表皮を残して内側を食害する。被害は、卵が産みつけられた株を中心に坪状に食害される。 |